【神田祭作成資料】

この資料は、千代田区ホームページ（下記URL）のページを加工して作成しています。

URL：

<https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/kuse/koho/pressrelease/r5/r505/20230509.html#tmp_honbun>

※以下本文は令和5年のものです。「今年」などのことばにはご注意ください。

●神田明神：住所とアクセス(電車)

住所：東京都千代田区外神田2丁目16-2

電話：03-3254-0753

アクセス（電車）

※JR

中央線、総武線　御茶ノ水駅より徒歩5分

京浜東北線、山手線　秋葉原駅より徒歩7分

※地下鉄

東京メトロ丸ノ内線　御茶ノ水駅より徒歩5分

東京メトロ千代田線　新御茶ノ水駅より徒歩5分

東京メトロ銀座線　末広町駅 より徒歩5分

東京メトロ日比谷線　秋葉原駅 より徒歩7分

●神田祭について

地域情報 神田明神「神田祭」4年ぶりに本格復活（令和5年5月9日配信）

このページは、上記日付によるプレスリリース（報道機関への情報提供）を掲載したものです。現在の事業等をお知らせする内容とは限りませんので、ご注意ください。

神田明神の例大祭「神田祭」が5月11日（木曜日）から執り行われます。

神田祭は、江戸三大祭、日本三大祭にも数えられる、徳川将軍公認の“天下祭り”です。

神田明神創建から約1300年近く続いています。

昔は、舟祭の形式だったと言われており、いろいろな歴史を経て現在の形になりました。

山王祭と隔年で行なわれますが、おととしはコロナ禍で中止になっていました。今年は4年ぶりに通常の規模で開催されます。

今回の神田祭は神田明神の御祭神の一つで、商売繁盛の神様とされる少彦名命（すくなひこなのみこと）の奉祀（ほうし）150年を記念して催されます。ぜひご注目ください。

※神田祭は西暦の奇数年、山王祭は西暦の偶数年に開催されます。

●見どころ

5月13日(土曜日)の「神幸祭」は、神輿が江戸・東京の下町を巡行します。大手町駅前の平将門の首を祀る「将門の首塚」では、江戸時代から続く「奉幣の儀」が執り行われます。

また5月14日(日曜日)の「神輿宮入」では、大小200を超える各町会の神輿が次々と境内に到着します。壮麗な景色が広がり、氏子たちの熱気に圧倒されます。

●スケジュール

日時：令和5年5月11日（木曜日）〜17日（水曜日）

5月11日（木曜日）午後7時～ 鳳輦神輿遷座祭（ほうれんみこしせんざさい）

5月12日（金曜日）夕方 氏子町会神輿神霊入れ

5月13日（土曜日）終日 神幸祭

5月14日（日曜日）終日 神輿宮入

5月16日（火曜日）午前11時～ 献茶式表千家家元奉仕

午後6時～ 明神能・幽玄の花（金剛流薪能）

5月17日（水曜日）午後2時～ 例大祭

（注意） 神田明神では神輿宮入のライブ配信を行う予定

詳細：[神田祭公式ホームページ（外部サイトへリンク）](https://www.kandamyoujin.or.jp/kandamatsuri/)

※神田祭作成資料ここまで